

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
保育原理 The Principles of Nursery Education		1年	前期	金曜日・5時限
単位数	授業の形態		授業の性格	
2単位	講義	選択 (保育士養成課程必修科目)		
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
教育原理 教育方法論				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
保育内容総論				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス	
藤原保利	本館2階	火・水・木・金の9時から16時(授業時間を除く)	授業中に指示します	
授業の概要				
保育の意義と理念、保育の思想と歴史、保育施設の制度と機能、保育の内容と方法、そして保育の計画を題材にして保育者にとって必要な保育に対する基本的な考え方、見方を学習し、多様な保育ニーズに応えられる保育者を養成するという課題意識に立って、保育全般に対する理論的理解を深める。				
授業の到達目標				
○子どもと親とともに保育を創造するための理論・技術の習得を図ることができるようにする。 ○保育の意義と理念、保育の歴史について学び、現代日本の保育の今日的課題について考究する。○諸外国の保育の現状についても理解を深め、グローバルな視点で21世紀の子どもにとって最善の保育を追及する姿勢を身につけることができるようにする。				
授業の方法				
基本的には、板書を中心とした講義形式で行う。単元終了毎に小テストを行う。宿題、課題を課し、レポートの提出を求める。「調べる・考える」を重視した授業の展開を図る。				
学習の成果				
○子どもと親とともに保育を創造するための理論・技術を習得し、活用することができる。 ○保育の意義と理念、保育の歴史について学び、現代日本の保育の今日的課題について説明することができる。○諸外国の保育の現状についても理解を深め、グローバルな視点で21世紀の子どもにとって最善の保育を追及する姿勢を身につけることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス 授業の概要と進め方について レポートのテーマと提出期限について説明			
第2回目	保育の理念と概念 現代社会と子育て 保護者との協働 保育の社会的意義			
第3回目	保育所保育と家庭的保育 保育所保育指針の制度的位置づけ <小テスト>			
第4回目	養護と教育の一体性 環境を通して行う保育			
第5回目	児童の最善の利益を考慮した保育 倫理観に裏付けられた保育士の専門性			
第6回目	発達過程に応じた保育 保護者との緊密な連携 <小テスト>			

第7回目	現在を最もよく生き、望ましい未来を作り出す力の基礎を培う保育		
第8回目	生活と遊びを通して総合的に行う保育		
第9回目	保育における個と集団への配慮 <小テスト>		
第10回目	計画・実践・記録・評価・改善の過程の循環		
第11回目	諸外国の保育の思想と歴史(イギリス、ドイツ、スウェーデン、アメリカ)		
第12回目	近代日本の保育の思想と歴史 幼稚園の成立と発展 保育所の成立と発展 現代日本の保育の動向 <小テスト>		
第13回目	諸外国の保育の現状と課題(イギリス、ドイツ、スウェーデン、アメリカ)		
第14回目	日本の保育の現状と課題 戦後の諸改革 幼稚園と保育所の普及 保育の現状と動向、課題		
第15回目	まとめと試験		
成績評価の方法と基準			
評価の領域		割合	評価の基準
授業参加態度		10%	以下の事柄で評価する。授業で使われる教材を準備して臨んでいる。ディスカッションの場面で自分意見を述べる。授業に集中し、ノートをきちんととっている。不明な点があれば積極的に質問する等々。(詳細はガイダンス時に説明する。)
レポート		20%	詳細に課題を探求し、内容構成もしっかりしており、課題の要件を十分に満たしている。(詳細はガイダンス時に説明する)
調査報告書			
小テスト		20%	単元終了時に小テストを4回実施する。授業や教科書に書かれている内容が十分に理解されている。(詳細はガイダンス時に説明する)
中間・学期末試験		50%	論述式である。設問に対する要求を満たし内容構成もきちんとしており、更に、授業内容及び教科書に書かれている範囲を超えて、自分の考え方が示されている。
発表内容(態度含む)			
その他			
教科書と参考図書			
使用テキスト:「保育原理」待井和江編 ミネルバ書房 参考図書:授業中に適宜指示する。			
履修上の心得・ルール			
目的意識・課題意識をもって臨むこと。遅刻厳禁。飲み物持ち込み禁止。			